



## 2020年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月13日

上場会社名 アクセルマーク株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3624 URL <https://www.axelmark.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾下 順治  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務本部長 (氏名) 鈴木 啓太 TEL 03-5354-3351  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 (代表取締役による四半期決算説明の動画配信を予定しております)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年9月期第3四半期の連結業績 (2019年10月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	2,141	△1.8	△595	—	△572	—	△781	—
2019年9月期第3四半期	2,179	30.0	△470	—	△478	—	△964	—

(注) 包括利益 2020年9月期第3四半期 △781百万円 (—%) 2019年9月期第3四半期 △969百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	△120.36	—
2019年9月期第3四半期	△192.08	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第3四半期	985	△127	△13.4
2019年9月期	1,932	281	14.3

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 △132百万円 2019年9月期 275百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年9月期	—	0.00	—	—	—
2020年9月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年9月期の連結業績予想 (2019年10月1日～2020年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	2,750	△8.3	△923	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期3Q	6,817,700株	2019年9月期	6,027,900株
② 期末自己株式数	2020年9月期3Q	33株	2019年9月期	33株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期3Q	6,493,144株	2019年9月期3Q	5,023,928株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算説明内容の入手方法について）

当社は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大防止の観点から、従来開催しておりました会場での機関投資家向け決算説明会に代えて、2020年8月14日(金)に当社コーポレートページにて決算説明動画を配信する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な拡大とそれに伴う経済活動の自粛や停止により景気の先行きが極めて不透明な状況にあると考えられます。

当社が主にサービスを提供しているインターネット関連市場においては既に我が国における個人利用率は2009年以降80%前後で推移しており、特に13歳～59歳までのインターネット利用率は各年齢層で9割を超えている状況にあります。こうしたなかで、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大によって、人との接触を避ける行動が求められる状況となり、これまで店舗やオフィス等を通じて行われていた様々なサービスのオンライン移行、在宅やローテーションでの勤務、eコマースやデジタルコンテンツの需要増など、産業構造や働き方の急激な社会変化が起きようとしており、今後はこれらの動きを一段と進めるためのIoTサービスやブロックチェーンを利用した各種サービスの普及がより後押しされるものと見込んでおります。

このような市場環境の下、当社グループは「基幹事業の入替による事業構造の転換」を事業方針に掲げ、不採算事業の整理を進めるとともに、2020年6月18日には株式会社オルトプラスヘゲーム事業の譲渡およびブロックチェーンゲーム等の協業に関する基本合意書を締結いたしました。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大により在宅勤務を導入していることに加え、ゲーム事業の譲渡により、当社本社オフィスに一部余剰が生じる見込みとなり、オフィスの縮小を決定するほか、固定費の削減を進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,141,314千円(前年同期比1.8%減)、営業損失595,667千円(前年同期は470,114千円の営業損失)、経常損失572,563千円(前年同期は478,799千円の経常損失)、固定資産の減損損失や投資有価証券評価損等207,149千円を特別損失として計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失781,515千円(前年同期は964,996千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

なお、当社では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大をうけ、感染リスク軽減と安全確保を第一とする方針のもと、在宅勤務(リモートワーク)の推奨やwebツールなどを使用した非対面による会議の運営、各種イベントの中止などの対応を実施しております。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (ゲーム事業)

ゲーム事業の売上高は388,882千円(前年同期比32.6%減)、セグメント損失は475,782千円(前年同期は314,923千円のセグメント損失)となりました。

前年同期とゲームタイトルの構成が変化していることに加え、第1四半期連結会計期間にパズルゲーム「COLOR PIECEOUT(カラーピースアウト)」の運用方針を見直したことによって、当初の想定に比べて下回っていること等により、前年同期比で減収減益となっております。

ブロックチェーンゲーム分野においては、ウォレットの導入などユーザーがゲームを開始するハードルが高いことやIPホルダーの参入が少ないこと、ルールの整備が不足していること等の要因によりブロックチェーンゲーム市場の成長が想定を下回っておりますが、これらの課題解消に取り組み、市場の成長に寄与してまいります。また、株式会社オルトプラスとブロックチェーンゲームにおいて、協業体制を構築し、共同でパブリッシング・運用等を行うことについて、協議を進めております。

#### (広告事業)

広告事業の売上高は1,692,318千円(前年同期比13.8%増)、セグメント利益は39,871千円(前年同期比36.6%減)となりました。

アドネットワーク「ADroute」は、コロナ禍におけるインターネット利用時間の増大に伴って、デジタルコンテンツの消費が促進されたこと等により、過去最高の四半期売上高を更新し、増収となりましたが、IoT分野の取り組みに対する先行投資により前年同期比で減益となりました。

コロナ禍において今後のさらなる拡大が見込まれているEC市場に対し、「トレーディングデスク」において培った運用代行のノウハウを基に、新たに中小事業者EC支援サービス「EC MARK」のサービスを開始いたしました。「EC MARK」では、国内だけでなく越境ECへの対応を進めていく予定であり、これまでECを手掛けてこなかった中小通販事業者のデジタルトランスフォーメーションによる収益拡大を支援してまいります。

IoTにおいて展開している「YUKIMI」は、今冬から自治体向けの商用サービスを開始するとともに、小ロットでの有償実証実験プランの提供を行ってまいります。また、民間企業様向けの営業も開始しており、試験導入が決定しております。これまで「YUKIMI」のみを扱っておりましたが、このコロナ禍において需要の高まっているヘルスケア分野の商材の取り扱いも開始いたしました。

(and Experience事業)

and Experience事業の売上高は63,886千円(前年同期比44.8%減)、セグメント損失は49,726千円(前年同期は107,513千円のセグメント損失)となりました。

当セグメントではIPを活用したサービスとしてオンラインくじサービス「くじコレ」や「プリントくじコレ」等を運営しておりましたが、事業構造の転換を図る上で、くじコレは、5月1日より株式会社一二三書房に運営を移管しております。現在運営中の各サービスにおいても、移管に向けて各社と交渉を行っております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前期末に比べて947,357千円減少し、985,021千円となりました。これは、主に現金及び預金が622,078千円、無形固定資産が154,883千円、投資その他の資産が71,419千円減少したこと等によるものであります。

負債合計は、前期末に比べて538,406千円減少し、1,112,459千円となりました。これは、主に1年内返済予定を含む長期借入金が225,000千円減少、転換社債型新株予約権付社債が200,173千円転換されたこと等によるものであります。

純資産合計は、前期末に比べて408,951千円減少し、127,438千円の債務超過となりました。これは、主に転換社債型新株予約権付社債の転換及び新株予約権の行使により資本金等が373,942千円増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失を781,515千円計上したこと等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2020年6月18日に公表した業績予想を変更しておりません。

なお、現時点では新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による業績の影響は軽微であります。今後、状況が大きく変化し、業績予想を修正する必要がある場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,174,615	552,536
売掛金	350,970	266,258
貯蔵品	5,636	1,408
その他	42,353	49,948
流動資産合計	1,573,575	870,152
固定資産		
有形固定資産	39,779	22,147
無形固定資産	158,381	3,497
投資その他の資産	160,642	89,223
固定資産合計	358,803	114,868
資産合計	1,932,378	985,021
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	230,990	201,669
1年内返済予定の長期借入金	300,000	225,000
未払法人税等	12,171	4,974
賞与引当金	36,371	18,074
その他	145,659	87,242
流動負債合計	725,193	536,960
固定負債		
長期借入金	150,000	—
転換社債型新株予約権付社債	775,672	575,499
固定負債合計	925,672	575,499
負債合計	1,650,865	1,112,459
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,221,021	1,407,992
資本剰余金	1,774,294	1,961,265
利益剰余金	△2,712,663	△3,494,178
自己株式	△25	△25
株主資本合計	282,628	△124,945
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7,085	△7,356
その他の包括利益累計額合計	△7,085	△7,356
新株予約権	5,971	4,863
純資産合計	281,513	△127,438
負債純資産合計	1,932,378	985,021

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年6月30日)
売上高	2,179,878	2,141,314
売上原価	2,132,621	2,239,618
売上総利益又は売上総損失(△)	47,257	△98,303
販売費及び一般管理費	517,372	497,364
営業損失(△)	△470,114	△595,667
営業外収益		
受取利息	3	741
受取手数料	450	450
還付加算金	257	—
新株予約権戻入益	—	741
仮想通貨評価益	342	30,097
その他	33	536
営業外収益合計	1,087	32,566
営業外費用		
支払利息	4,239	2,488
投資事業組合運用損	1,635	3,662
新株予約権発行費	2,008	286
新株発行費	1,398	2,526
その他	489	498
営業外費用合計	9,771	9,462
経常損失(△)	△478,799	△572,563
特別損失		
減損損失	482,872	142,149
投資有価証券評価損	1,473	15,000
貸倒引当金繰入額	—	50,000
特別損失合計	484,345	207,149
税金等調整前四半期純損失(△)	△963,144	△779,713
法人税、住民税及び事業税	1,851	1,802
法人税等合計	1,851	1,802
四半期純損失(△)	△964,996	△781,515
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△964,996	△781,515

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△964,996	△781,515
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,420	△270
その他の包括利益合計	△4,420	△270
四半期包括利益	△969,417	△781,785
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△969,417	△781,785
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の転換により、資本金が100,086千円、資本準備金が100,086千円増加しております。

また、第22回新株予約権の権利行使により、資本金が86,884千円、資本準備金が86,884千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,407,992千円、資本剰余金が1,961,265千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ゲーム 事業	広告事業	and Experience 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	577,369	1,486,789	115,719	2,179,878	2,179,878	—	2,179,878
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	577,369	1,486,789	115,719	2,179,878	2,179,878	—	2,179,878
セグメント利益又は損失(△)	△314,923	62,920	△107,513	△359,516	△359,516	△110,598	△470,114

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△359,516
全社費用(注)	△110,598
四半期連結損益計算書の営業損失	△470,114

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ゲーム 事業	広告事業	and Experience 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	388,860	1,688,567	63,886	2,141,314	2,141,314	—	2,141,314
セグメント間の内部売上高 又は振替高	21	3,751	—	3,772	3,772	△3,772	—
計	388,882	1,692,318	63,886	2,145,087	2,145,087	△3,772	2,141,314
セグメント利益又は損失(△)	△475,782	39,871	△49,726	△485,636	△485,636	△110,031	△595,667

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△485,636
全社費用(注)	△110,031
四半期連結損益計算書の営業損失	△595,667

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで4期連続となる営業損失の計上及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上し、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。

当第3四半期連結累計期間においても、営業損失の計上及びマイナスの営業キャッシュ・フローの計上が生じております。また、固定資産の減損損失等の特別損失の計上もあり、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しており、債務超過となっております。

以上により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりますが、前連結会計年度に第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権の行使や転換社債型新株予約権付社債及び新株予約権の発行、当第3四半期連結累計期間までの新株予約権の行使による資金調達により、財務基盤の安定化に努めております。

当社グループは、不採算事業からの撤退、基幹事業の入替えによる事業構造の転換、黒字化に向けた事業構造改革の断行を2020年9月期の経営方針に掲げ、事業を推進してまいりました。このようななかで、これまでゲーム事業、広告事業、andExperience事業の3つの報告セグメントでの事業を主として行ってまいりましたが、2020年7月31日付の取締役会において、開発費の増大や、ユーザー獲得のための広告宣伝費の高騰などにより、厳しい事業環境となっていたゲーム事業及びその他サービスを株式会社オルトプラスに事業譲渡による方法及び会社分割（簡易新設分割）により新設会社に承継させたいと、新設会社の全株式を譲渡する方法にて譲渡することを決議いたしました。赤字が継続していた事業・サービスからの撤退、ブロックチェーンゲーム関連事業は協業体制に移行することで事業構造の転換が進み、収益事業である広告事業は売上の維持拡大、データ活用した新機能やサービス開発による収益力の強化を図り、IoTは長期的な成長分野として継続投資を行ってまいります。加えてオフィスの縮小や業務運営体制の最適化と共通部門費用等の固定費削減を進め、収益改善に努めてまいります。

これらの対応策を環境の変化に適応し推進していくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。